

親鴨だより



2000年8月号

第167号

今年の暑さはまた、格別ようです。皆さんにはお変わりなくお過ごしのことと思います。原稿の締め切り間際に、野洲町の姉妹都市から帰国しましたので、その様子と高齢者センター(Senior Center)についてお話しさせていただきます。野洲町の姉妹都市クリントン・タウンシップは、米国の大都会デトロイト市(人口:100万人(市中心部))まで50kmのところであり、車で35分のところとは思えない静かで治安のよい町です。緯度的には北海道の函館に位置し、人口9万5千人の町です。今年の国勢調査の結果、10万人になるようです。

'93年8月に姉妹都市提携の調印を行って以来、毎年訪問プログラムを実施し相互交流を続けております。今年は、文化交流を『テーマ』に応募された町民の中から交流使節団を結成し、使節団一行13名と7月7日(金)に出発し、9泊10日のホームステイ・プログラムを終え、7月16日(日)に帰国しました。私たち使節団は、クリントン・タウンシップのサマー・フェスティバルに参加し、会場となった庁舎前の見晴らし台横に設営した『日本文化の紹介』コーナーに350名を超える町民の参加をいただきました。『ミニ野洲まつり』を開催して、居合道を始め雅楽、太鼓、着物の着付け、折り紙の伝統的日本文化の紹介と、屋台を設けて『焼きそば』の食文化の紹介をしました。特に、着物の着付け、焼きそばの屋台には、長い列ができました。

日本文化の紹介では、ホストファミリーを始めこれまでに野洲町を訪問された人達が私たちのグループの中に入って、日本文化の紹介のサポートや、『焼きそば』の屋台ではキャベツを刻み、『焼きそば』づくりに大奮闘をいただき、『ミニ野洲まつり』を成功裡に終えることができました。『ミニ野洲まつり』を通して、ともに学び、ふれあい、語り合い、またプログラムを通してお互いの理解と信頼を深め、さらに友情を育むことができたと思っております。

私は姉妹都市提携の調印が行われて以来、'94、'96、'98年と今年の交流プログラムに参加する機会が得られ、ホームステイ(フォード・カンパニー製品開発部門退職者宅('00/'98)、議員宅('96)、教授宅('94))を通して、クリントン・タウンシップに多くの友人ができ忘れることのできない思い出と貴重な体験をさせていただきました。

ホームステイ・プログラムの中で行政施設見学があり、高齢化社会を迎え設立された高齢者センター(Senior Center)を見学しました。55歳で入会(入会金:20ドル)ができ、現在7千人が登録しています。プログラムの一つに教室《体カトレーニング、ヨガ、太極拳、ビリヤード、ダンス、ソフトボール、料理、工芸品(ステンドグラスを使って)、絵画、“ぬいぐるみ”づくり、パソコン等の教室》がありまして、多くの利用者でセンターは毎日賑わっています。センターの一角にマイクロソフトの支援を得て、パソコン教室が設けられていました。センターの事務局長の話では、開講前、受講者が少ないのではないかと予想したそうですが、パソコンを覚え孫とEメールでコミュニケーションをしたいという受講者がいて、予想に反して教室は盛況とのことでした。私たちが見学をしたときも教室は受講生でいっぱい、先生から指導を受けていました。

センターで新しい友達をつくり、交流の輪を広げ、楽しんで励んでいる姿、そして自立心と生きがい求めて“第2の人生”を歩もうとしている姿に接し、大変刺激を受けるとともに、私たちの地域社会にもこのような施設を望みたいところです。

'98に両町の友好と発展を願う足跡として造られた『日本庭園』が、順調に育っていました。

野洲支部 小熊 俊夫